

「子ろばに乗ってエルサレムに入る」

2014年10月17日

マルコによる福音書 11章8節～11節。 多くの人が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は野原から葉の付いた枝を切って来て道に敷いた。そして、前に行く者も後に従う者も叫んだ。「ホサナ。主の名によって来られる方に、／祝福があるように。我らの父ダビデの来るべき国に、／祝福があるように。いと高きところにホサナ。」こうして、イエスはエルサレムに着いて、神殿の境内に入り、辺りの様子を見て回った後、もはや夕方になったので、十二人を連れてベタニアへ出て行かれた。

主イエスは子ろばに乗ってエルサレムに入られた。過越しの祭りを祝うために巡礼に来ていた群衆は自分の服を道に敷き、また葉の付いた、なつめやしの枝を道に敷いて歓喜して迎えた。その歓喜は「ホサナ。主の名によって来られる方に、／祝福があるように。我らの父ダビデの来るべき国に、／祝福があるように。いと高きところにホサナ」という声になった。ホサナは「救ってください」という意味である。子ろばに乗った主イエスに、救ってください、主の名によって来られたあなたに祝福があるように、我らの父ダビデが建てた国に祝福があるように、主よ、救ってくださいと叫んだ。ガリラヤで現した素晴らしいしるしによって、ローマからの独立、屈辱からの解放を達成し、ダビデ王国を再建してくださいという悲願を込めて叫んだのである。

子ろばに乗った姿は弱々しく、こっけいにも見える。それを王として迎える光景は想像し難い。しかし、主イエスを信じ、独立、解放を求める群衆の切なる願いが表されていた。主イエスの思いとは違っており、両者の間は天と地ほどかけ離れていた。主イエスはゼカリヤの預言の成就として子ろばに乗られた。それは「シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。わたしはエフライムから戦車を／エルサレムから軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ／諸国の民に平和が告げられる。彼の支配は海から海へ／大河から地の果てにまで及ぶ」という預言である。ゼカリヤは、猛々しく、軍馬にまたがった将軍が部下と戦利品と奴隷にした者たちを従え、堂々の凱旋行進して来るのを見た。しばらくすると、また違う将軍が同じような凱旋行進で入って来た。その繰り返しである。軍馬にまたがる将軍によっては平和は実現しないということ、イヤというほど見、体験した。武力による勝利に絶望したゼカリヤは、軍馬でなく、子ろばに乗る、神に従い勝利を与えられる高ぶらない王が来られる、その王によって、戦車、軍馬、弓が絶たれ、地の果てまでの平和が実現する、その時、シオン、エルサレムの人々よ、歓喜の声をあげよと語ったのである。

主イエスはゼカリヤの預言の成就としてのご自分を現された。マタイ福音書の並行記事に「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいでになる、／柔和な方で、ろばに乗り、／荷を負うろばの子、子ろばに乗って』」と書いている。「柔和」は謙遜の意味でもあるが、無防備とも理解される。そして「荷を負う」は下で支えることである。主イエスは、無防備で下で支える子ろばに乗られた。このパフォーマンスによって、十字架で死んで、神との平和を実現する真の王を現そうとしている。それは、群衆には理解できないことであった。ルカ福音書は「都のために泣いて」と書いている。人間の願いと神が与える救いは、いつも深い乖離の中にある。